



SHIJO

2025
四條畷市
市勢要覧

NAWATE



しぜんたい、 しぜんたい。

大阪府の北東部に位置する^{しじょうなわて}四條畷市は、市域の約3分の2を北生駒山地が占める緑豊かなまちです。市の西部は、ところどころに農地や社寺、史跡を残す一方、2本の国道とJRの沿線を中心に市街地が広がっています。中央部には、大阪平野を眺める飯盛山など北生駒の山々が連なり、そのほとんどが金剛生駒紀泉国定公園に指定されています。スポーツ・宿泊・研修施設などがある緑の文化園周辺には、市民をはじめ、近隣他市からも多くの人が自然を楽しみに訪れます。東部は、昔ながらの田園風景と平成初期に整備された閑静な住宅街が共存する地域が広がります。まちと自然、人と人がほどよい距離でのびのびと過ごせる“市全体”が“自然体”。四條畷市はそんなまちです。



四條畷市
魅力発信サイト

数字で見る四條畷

子育て世代から選ばれるまち
30代の子育て世代

8年連続
転入超過

(平成29年～令和6年)
※総務省/住民基本台帳
人口移動報告より

総人口

53,689
人

※令和7年8月末

市立学校

小学校 **6** 校

中学校 **3** 校

※令和6年度末

世帯数

25,230
世帯

※令和7年8月末

市の総面積

18.69
km²

※令和6年度末

指定文化財

国指定 **2** 件

国登録 **2** 件

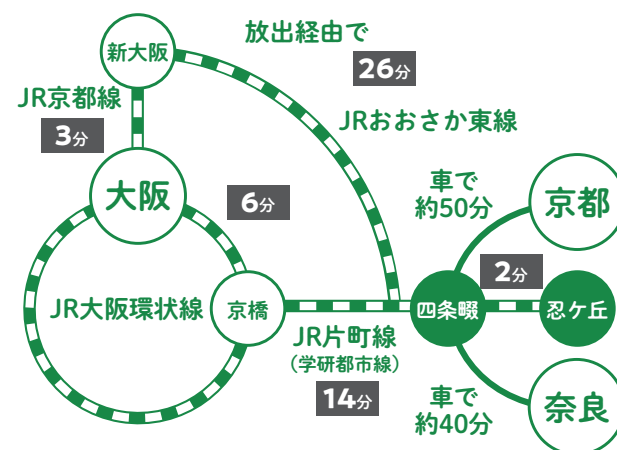
府指定 **8** 件

※令和6年度末

市の位置



アクセス



市名の由来 ※諸説あり

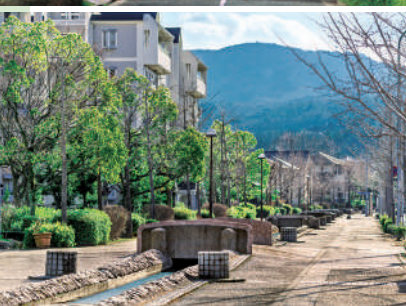
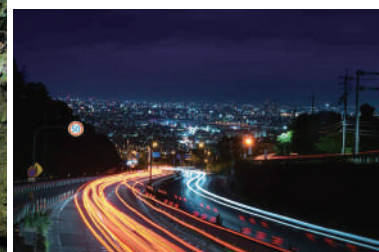
南北朝時代、楠正行を^{くすのきまさつら}実質的総大将とする南朝方と、足利尊氏の家臣高師直を^{こうのもろなお}総大将とする北朝方の戦いの場として、四条縄手(畷)という地名が『太平記』に記されています。この四條畷の戦いに敗れた楠正行をはじめ殉難戦没将士を祀るため、明治23年に飯盛山麓に

四條畷神社が創建されました。以降、当時の甲可村(現在の四條畷市西部地域)管内の公共施設が四條畷の名を冠するようになり、昭和7年に村名が四條畷村に改められ、四條畷町を経て、昭和45年に四條畷市として市制施行されました。



まちのにぎわいと 豊かな自然が共存するまち

地域に住まう人々の暮らしを支える駅前商店街や大型商業施設などのにぎわいから、少し離れたところに、木々がそよぎ、鳥がさえずる——そんな自然があります。西部・東部地域から車でわずか10分ほどの距離に、豊かな自然と多様な生態系が広がる大阪府民の森のひとつ、緑の文化園 むろいけ園地があり、都市の喧騒を離れ、自然のなかでハイキングやスポーツを楽しむために、市内外から多くの人を訪れます。市の真ん中に自然があり、いつもそばに感じられるから、のんびり、ゆったりとした気持ちで過ごすことができます。



権現の滝

寝屋川の支流、権現川にかかる落差約15mの滝。四條畷市に伝わる民話のひとつ「権現滝(さかれた龍)」にもその逸話が残されています。



YouTube



室池

飯盛山東方にある新池・古池・中ヶ池・砂溜池の総称。かつて天然氷を保存する氷室があったことがその名の由来とされ、室池を中心にむろいけ園地が整備されています。



YouTube

市民が答えた四條畷の魅力

緑や川などの
自然が豊富 である

82.2 %

スーパー・量販店・商業施設があり、
買い物に便利 だ

63.2 %

※令和6年度市民意識調査より「とてもそう思う・ややそう思う」の合計



森の宝島

まず出迎えてくれるのは、長さ54mのつり橋。山なみを眺めながらたどり着いた先には、広大な敷地が広がり、山の斜面を活用した巨大アスレチックやカラフルな木製遊具、大きな滑り台が設置されています。



YouTube

nawate's view 2

子どもをのびのびと育めるまち

家族で楽しめるアスレチックや遊具を備えた緑豊かな公園があります。自然に触れながら身体を動かし、遊び、学ぶことができるから、子どもたちも自然体のまま、いきいきと成長していきます。市中央部に位置する府民の森緑の文化園 むろいけ園地には、自然の中でのびのびと体を動かし遊べるスポット・森の宝島があり、子どもを連れたたくさんの家族でにぎわいをみせます。市では、子育て世帯に向けたさまざまなイベントや支援を実施するなど、まちぐるみで子育てをサポートする環境があります。

子育て世代から選ばれるまち

30代の子育て世代

8年連続転入超過

(平成29年～令和6年) ※総務省/住民基本台帳人口移動報告より

市民が答えた四條畷の魅力

四條畷市にこれからも
住み続けたい

68.9%

※令和6年度市民意識調査より「とてもそう思う・ややそう思う」の合計



くすの木公園



森の宝島



つどいの広場なわて



水辺自然園



野外活動センター/天体観測室



市民総合センター



戎公園



野外活動センター/アーチハウス



森の宝島

野外活動センター

キャンプや天体観測など、自然を身近に楽しめるイベントが年間を通して開催されます。石窯ピザ作りなど体験型アクティビティも充実しています。



YouTube



四條畷神社

四條畷の戦いで戦死した楠正行など25名を祀るため、明治23年に創建。本殿の隣には、正行の母・久子を祀る御妣神社があり、人々が安産・子育てなどを祈願します。境内は桜の名所としても知られ、春には多くの参拝客でにぎわいます。



YouTube

nawate's view 3

日常の風景に古くからの 歴史・文化が溶け込むまち

はるか旧石器時代から人々の営みが脈々と続く、歴史が息づく地として、さまざまな時代の土器や石器、古墳時代の埴輪が多く出土するほか、中世の史跡がまちの風景に溶け込み、地域の象徴として残されています。

四條畷市の歴史の象徴ともいえる存在が、南北朝時代の武将・小楠公こと楠正行。四條畷の地で、忠孝から若くして壮絶な最期を遂げた正行の生きざまは、多くの人々の心に受け継がれ、正行らを祀った四條畷神社や墓所などは今なお市民に親しまれています。



飯盛城跡の石垣



四條畷神社



忍陵神社



小楠公墓所の楠



ふとん太鼓



とんど焼き



馬形埴輪



子馬形埴輪

市民が答えた四條畷の魅力

歴史を感じる
場所がある

71.3 %

※令和6年度市民意識調査より「とてもそう思う・ややそう思う」の合計



四條畷神社



地車曳行



小楠公墓所



龍尾寺



日本最古のキリシタン墓碑

国史跡・飯盛城跡

四條畷市と大東市にまたがる飯盛山に築かれた西日本有数の規模を誇る山城跡。戦国時代の武将・三好長慶が居城とし、石垣を多用した城としては織田信長が築いた安土城に先駆ける貴重なものとして、その歴史的価値が認められ、国の史跡に指定されました。



YouTube

東西約7km・南北約5kmの市域に、
活気あるまちと豊かな自然が共存するコンパクトシティ

なわてMAP

中部
地域 季節折々の
自然がいっぱい

生駒山系の豊かな自然が広がります。緑の文化園では、豊かな自然のなかでスポーツ・アスレチックなどを楽しめます。



4 市民総合センター

市民ホール、図書館、市立公民館の3つの施設を集約。子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える市民の憩いの場として、地域交流と文化活動の拠点として親しまれています。



5 龍尾寺

四條畷市の民話「権現滝（さかれた龍）」のなかで、さかれた龍の尾が地上に落ちてきた場所に行基が開山したと伝えられている寺院。寺宝龍尾は辰年にのみ一般公開されます。

西部
地域 駅を中心とした
活気あるまちなみ

忍ヶ丘駅と四條畷駅を中心に3つの商店街と大型商業施設など日常の買い物に便利な場所がたくさんあります。



1 小楠公墓所(大阪府指定史跡)

楠正行を弔う小さな墓石のそばに植えられた2本の楠が長い年月とともに1本に合わさり、小さな墓石を包みこみました。樹齢600年超の楠は大阪府の指定天然記念物になっています。

2 和田賢秀の墓(大阪府指定史跡)

楠正行とともに四條畷の戦いで戦死した和田賢秀は、亡くなるまで敵に噛みつき離さなかったと伝えられていて、地元では「歯神さん」として崇められています。



続日本100名城にも選出されました



3 歴史民俗資料館

国内最古のキリシタン墓碑をはじめ、市内で出土したさまざまな資料を展示。明治時代の土蔵を利用した民俗資料展示室は、国の登録有形文化財に登録されています。



四條畷の歴史を学べます



6 府民の森緑の文化園むろいけ園地

室池を中心に四季折々の草花が咲く散歩道や野鳥観察台が整備された水辺自然園では、豊かな自然を堪能できます。森の宝島では親子で楽しめる木製アスレチックが充実。休日には多くの家族連れでにぎわいます。



東部
地域 田園風景と
閑静なまちなみ

区画整備された落ち着いた住宅街と日本の原風景を思わせるのどかな田園風景が広がります。

四條畷市総合計画

四條畷市の まちの将来像 (2050年の夢)

自然と歴史をいつくしみ
やすらぎ ぬくもり にぎわいをそだてよう
みんなの夢をつくるまち 四條畷
すべては住みよいまちづくりのために

地域が、潤い、安らぎ、 生きがいに包まれる環境づくり

目標

- 平和で人権が尊重される社会の形成に努めます
- 安全・安心な暮らしと環境を確保します
- 健康、福祉の地域社会づくりに努めます



1 自然環境の保全を図り、 快適な暮らしを実現する基盤づくり

大阪都心に近く、交通の利便性や自然・歴史・文化に恵まれた地域特性を活かし、快適な暮らしを支える都市基盤整備を進めます。環境に配慮した活動を行う住民等を支援し、低炭素・循環型社会の実現をめざすとともに、安定した水道水の供給や災害に強い下水道の整備など、市民生活に欠かさない公共インフラの整備にも計画的に取り組めます。

目標

- 美しい自然と調和し、環境と共生するまちをめざします
- 生活環境を保全し、暮らしの豊かさにつなげます



4 学び、文化、スポーツから 働きかける夢づくり

心豊かな人づくりをめざし、子どもから高齢者までの誰もが自己実現できる環境づくりに努めます。ゆとりや個性、豊かな人間性、生きる力、確かな学力、郷土愛や高い人権意識を重視した教育環境を整えます。人と人との絆で地域社会を元気にするため、教育・学習の場づくりや学校の役割に留意した施設整備を進めます。数多くの歴史遺産や伝統文化を未来へ継承し、魅力ある資源や文化交流、多文化共生を推進します。さらにス

ポーツ施設を活用し、住民が気軽に体を動かせる環境づくりも実現します。

目標

- 学校、家庭、地域が連携して、子どもたちの“学び”を支援します
- 生涯にわたり学ぶことができ、スポーツに親しめるまちをめざします
- 地域の伝統と歴史を継承し、新たな文化を創出します



賑わいと魅力を創造し、 まちを元気にする活力づくり

行政と住民・団体・学校・事業所等が協働し、地域の実情に合った魅力的な取り組みを継続することで、豊かな地域コミュニティの形成とコミュニティ意識の成熟をめざします。すべての人権が平等に尊重され、責任を分かち合いながら活躍できる社会の実現を図り、男女共同参画を推進します。地元産の新鮮な食材提供や地域産業支援、地域資源を活かした産業振興により、賑わいある生活しやすいまちをめざすとともに、公共施設の再整備や計画的な土地

利用、市街地整備を進め、移動しやすく快適な住環境を整え、地域のコミュニティ醸成にも努めます。

目標

- 住民参画を促進し、協働のまちづくりを進めます
- 地域経済を支える産業の活性化を図ります
- 快適で便利な生活、都市基盤を整備します



確かな未来を築く 行財政運営に向けた体制づくり

目標

- 健全な財政運営と効率的、効果的な行政運営を進めます
- 住民にわかりやすく、開かれた市政を実現します
- 住民ニーズに適應し、質の高い行政サービスを提供します

社会経済の変化や地方分権の進展を踏まえ、将来にわたる健全な財政運営と効率的かつ効果的な行政運営を推進します。また、近隣市との連携を基本とした行政を展開します。多様化する行政の役割に対応できる人材確保と職員育成に努め、住民の視点に立った、住民のための市役所づくりをめざします。



四條畷市のあゆみ

1970

府内30番目の市として市制を施行
人口:35,833人、
世帯数:9,835世帯



1976

老人福祉センター
「楠風荘」オープン

1984

田原ニュータウン
起工式

1986

保健センター
オープン
議員定数削減、
全国最小市議会に

1990



国道163号清滝
第一トンネル開通
パークヒルズ田原
まちびらき
野外活動センター
オープン

1992

福祉コミュニティ
センター オープン
市役所東別館オープン

1995

市民総合体育館
「サン・アリーナ25」
オープン



2001

環境センター
オープン
学校給食
センター
オープン

2004

コミュニティ
バス運行開始



2014

国道163号清滝
第二トンネル開通

2021

飯盛城跡が国史跡に指定



四條畷市PR大使を創設
(谷口 智則氏、稲田 直樹
氏を任命)

2025

大阪・関西万博
大阪ウィーク
に市が出展



昭和

平成

令和



総人口が
50,000人を
突破

1975



市民総合センター
オープン

1981



歴史民俗資料館
オープン

1985

教育文化センター
オープン

1988



緑の文化園
オープン式典

1991



グリーン ホール田原
オープン

1993

総人口が
55,000人を
突破

2000

日本最古の
キリシタン
墓碑出土

2002



子育て総合支援
センターオープン

2006



「つどいの広場なわて」

2016

第6次四條畷市総合計画を策定
すてっぷ★なわてオープン
(児童発達支援センター、子育て
総合支援センターの複合施設)

田原地域で自動運転車両
「たわらコネクトカート」
の運行開始

市長選と市議補選で電子
投票を実施

2024

友好都市



三重県 紀北町 (平成7年 友好都市提携)

三重県紀北町は、海・山・川の豊かな自然に恵まれたまちです。新鮮な魚介類をはじめとする豊かな食、清流「銚子川」、世界遺産「熊野古道」などの自然に恵まれ、大燈籠と花火の競演「きほく燈籠祭」など、民俗行事や四季の祭りが古式ゆかしく華やかに繰り上げられます。



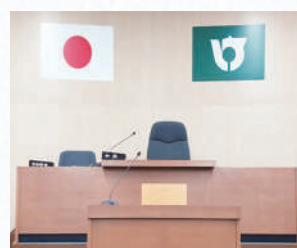
ドイツ メアブッシュ市 (平成22年 国際友好都市提携)

ドイツ連邦共和国メアブッシュ市は、四條畷市と同じ1970年に誕生し、人口規模や豊かな自然に囲まれていることなど、四條畷市と共通点が多いまちです。州都デュッセルドルフに近く、交通事情の良さから日系企業も多数所在し、市内には多くの日本人が住んでいます。



市議会

四條畷市議会は、市民から選挙で選ばれた議員12人で構成され、5月1日から翌年4月30日までを通年会期としています。市議会ホームページで、市議会のライブ中継を字幕配信で実施するなど、市民にとって開かれた議会を推進しています。



四條畷市民憲章

(昭和50年11月2日制定)

わたくしたちの住む四條畷市は、多くの歴史的遺産と飯盛山系の緑にめぐまれた楠の香豊かなまちです。わたくしたちは、これらを後世に伝え、みんなのしあわせとよりすばらしいまちへの発展を願ってこの市民憲章を定めます。

わたくしたち四條畷市民は
めぐまれた自然を生かし
美しいまちを つくります

ふるさとを愛し 心のふれあいを求め
友情の輪を ひろげます

希望と夢をもって
しあわせなまちを めざします

豊かな伝統と歴史をまもり
新しい文化を そだてます

働くことに誇りをもち 力をあわせて
住みよいまちを ぎざぎざす

四條畷市歌

(平成2年7月1日制定)

「いま ここに」

作詞／金堀 則夫 補作詞／島田 陽子
作曲／キダ タロー 編曲／大前 成之

- 一 飯盛の 山を仰いで そのふもと 歴史のまちが いきいきと 千古の歩み 伝えゆく 緑ゆたかな 四條畷 いま ここに住み いま ここに生きる われらの 誇り 文化の 香りに つつまれる
- 二 まんまんと 水をたたえる 室池の 生命のしずく 糧として 未来のちから たくわえる 希望あふれる 四條畷 いま ここに在り いま ここに謳う われらの 自然 つきない 恵みが 幸となる
- 三 くすのきの 木もれ陽あびて 遊ぶ子ら 人の和 胸に 育んで 住みよいまちを 築きゆく 心ふれあう 四條畷 いま ここに会い いま ここに結ぶ われらの 友情 世界の 平和に つなげよう



市章

四條畷の「し」と畷の「ナ」の2文字を平和の象徴である鳩に図案化し、未来に向かって雄飛する四條畷市の姿をあらわしたものです。



市の花

さつき



市の木

くすのき

市の イメージ キャラクター



くっすん

四條畷市 市勢要覧

市制施行55周年記念

発行 令和7年9月

〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号

TEL 072-877-2121(代表) / 0743-71-0330(代表)

市ホームページ



YouTube



デジタルブックでも
閲覧できます

